

委員	整理番号	資料名	頁	項目	質問内容等	その場での回答	回答・処理方針
山崎委員	1	資料1-4 再評価説明 資料	32	ため池の計画洪水量	ため池の防災効果について言及されているが、計画洪水量などはどのように考えているのか。	正確な数値は現在覚えていませんが、土地改良の基準に基づいて、堤防本体や洪水吐などについて設定しています。	別紙回答
駄田井委員	2	資料1-4 再評価説明 資料	33	耕作放棄地解消	現場も見せていただいたが、すごく大事な基盤整備と思う。耕作放棄地がゼロになったのであれば、その点も示して行くと良いのでは。	検討します。	資料1-4 P.33に放棄地が解消されたことを追記しました（下記のアンダーライン部）。 記載（案）：地域農業を守る観点から・・・（略）・・・耕作放棄地の解消を目指す（既に区画整備を了しており、 <u>放棄地は解消済み</u> ）。
中田委員	3	資料1-4 再評価説明 資料	43	モニタリング結果	モニタリングの結果は示してはどうか。基礎資料には載っているようですが。	検討します。	ご指摘を踏まえ添付しました。
中田委員	4	資料1-4 再評価説明 資料	42	アメリカザリガニ	監視すべき外来種の記載がありますが、農林水産省で今年の3月にアメリカザリガニ防除の手引きを公表しました。3年かけて全国で調査していて、その委員会の座長をしていたのですが・、環境配慮検討委員会で種の選定をされていることから、難しいかもしれませんが、可能であればアメリカザリガニを入れてほしい。	検討します。	記載漏れであり、資料1-4 P.42に、監視対象種として、甲殻類の欄を設けてアメリカザリガニを追記しました。
諸泉委員長	5	資料1-4 再評価説明 資料	37	定量的に捉えられない効果	定量的に捉えられない効果として、地元の実感等を整理しているが、数値化していないものを「費用対効果分析」と題するのは違和感がある。書き方の問題。	検討します。	資料1-4のP.37の「費用対効果分析」の文字を削除しました。
山崎委員	6	資料1-4 再評価説明 資料	32	ため池の流域治水	ため池の流域治水の効果として下流側の効果まで計算する必要はないと思いますが、可能であれば、ため池自体の決壊による被害防止効果だけでなく、ため池を改修することで雨水を一時的にためることができて流域治水として地域の防災にも貢献していることを追加すればよいのではないかと思います。	検討します。	別紙回答

南周防地区 第1回技術検討会意見への回答

中国四国農政局 農村振興部
事業計画課

問【No1】ため池の防災効果について言及されているが、計画洪水量などはどのように考えているのか。

＜回答＞ため池の改修にあたっては、洪水吐工の設計洪水量1/200年確率の1.2倍としています。

問【No6】ため池の流域治水の効果として下流側の効果まで計算する必要はないと思いますが、可能であれば、ため池自体の決壊による被害防止効果だけではなく、ため池を改修することで雨水を一時的にためることができて流域治水として地域の防災にも貢献していることを追加すればよいのではないかと思います。

＜回答＞ため池の改修は背後地の流域をもとに200年に1度の雨を想定し、堤体の漏水や浸食などの老朽化、洪水吐の断面不足などの機能不足に対応した改修を行っています。

もともと貯水機能のみのため池のため、洪水調整が可能な貯水容量を確保するための堤体のかさ上げ等の改修は行っておらず、流域治水による地域の防災効果は見込んでいません。

なお、現在の経済効果において、ため池の災害防止効果で貯留効果は算定していないため、頂いたご意見については、今後の効果算定における手法検討の参考とさせていただきます。